

「ブレスト会議」



プログラム

当日参加者：41人

- | | |
|-------|---------------------------|
| 18:00 | 開会 |
| | 1. 趣旨説明 |
| 18:20 | 2. 自己紹介（各テーブルで） |
| 18:25 | 3. グループワークー30分×3ラウンド |
| 18:55 | テーマ1：選ばれるまちってどんなまち |
| | テーマ2：活動や交流の舞台になるまちってどんなまち |
| 19:25 | テーマ3：各地域の長所や推したい特徴を考えよう |
| 19:55 | －休憩（10分）－ |
| 20:05 | 4. 発表・全体意見交換 |
| 20:25 | 5. 総評（中島会長、村山副会長） |
| 20:30 | 閉会 |

ブレスト会議 開催風景



グループ討議の様子



グループ討議の発表



講評（中島会長・村山副会長） 3

テーマ1 選ばれるまちってどんなまち（A、D）

- 選ばれるための藤沢の「ブランド性」が必要との話は2グループ共通で見られた意見。
- 人やコミュニティ、ライフスタイル、教育などの身近な地域の暮らしやすさが重要という意見も多く、中でも人の寛容性や繋がりが魅力とされた。
- 経済環境や街の賑わい創出も重要で、出会いのきっかけとしてのイベントや空き家活用による居場所、農業振興や企業の誘致、起業の支援などの意見もあった。
- 全体として選ばれる街の要素は既にかなり持っていると考えて居る人が多い印象。

テーマ2 活動や交流の舞台になるまちってどんなまち（B、E）

- ハード的な舞台としては公共施設や駅前、公園など地域の様々な資源を活用すべきとの意見がある。
- 活動や交流のソフトとして、子どもから高齢者までの世代間交流、団体と地域や企業との交流、それを通じた学びの場の創出などの意見があがった。
- このような場の特性は、目的性の強い「アクティブな場」多くの人が気軽に楽しめる「フラットな場」、何か生まれそうな予感のする「何気ない場」などの多様な場がバランスよくあることが大事との意見があった。

テーマ3 各地域の長所や推したい特徴を考えよう（C、F）

- 市内全域について資源や推したい特徴が抽出された。
- 交通アクセス、生活や趣味・仕事の充実、自然、歴史文化、学びの要素など長所となる分野が幅広いほか、このテーマでも人が財産という意見が見られた。
- 今後の人口減少を踏まえて、住む人・働く人を増やすとともに、空き家などの負の資源と思われるものも活用して次世代を育成するという考え方も示された。

藤沢ブランドと関係の深い「自然」と自然を使った活動

⑤自然

- 自然の魅力が集客の力に
- ウォーキング環境良し（但しトイレ不足）
- 北部の果樹園や直売所
- 引地川親水公園
- （各地で）富士山が見える風景

③藤沢ブランド

- 「湘南」への憧れ
- 富士山と江ノ島、トンボロ
- サーフタウン
- 音楽が楽しめる街
- 少年の森をブランド化しよう
- 皇大神宮と遊行寺

④子育てと教育

- 子どもが遊べる環境（道路や公園）
- 子育てがしやすい
- 学校の種類の多さ（養護学校や学童の多さ）
- 大学の多さ（5大学）

身近な地域社会の魅力と安心感

⑥健康・スポーツ

- スポーツができる街（サーフィンやボードなど）
- スポーツ特区にして藤沢ルールでスポーツを楽しめるように
- 普段の健康と病気時の安心

藤沢の人たちと
楽しみの核心

①藤沢人

- 趣味の多い人達の存在
- 許容性・寛容性のある人
- 地元愛のある人
- 明るい人と雰囲気

②コミュニティ

- 頼れる場所がある（医療や相談）
- しっかりした自治会
- 地域が明るく、綺麗
- 安全で安心できる
- 高齢者－子どもの問題がない

⑦住まいと暮らし・サービス

- 空き家のマッチングの仕組み
- 暮らしの選択肢の多さ（サービスや余暇の選択ができる）
- 治安の良さ
- 災害時の安心
- 小さな商圏内で日常品が揃う

寛容性のある緩い
「地域ルール」が必要

⑨地域経済

- マーケット（人口規模や世代別の人口、若者の人口等）の魅力（人口の実態分析は必要）
- 働く場が多さ、職住近接の観光
- 研究機関などの新たなビジネス、働く場の創出
- オフィス・文化施設が経済を支える機能に

⑩集客・賑わい

- 駅前の賑わいの再興（店舗が住宅化の傾向あり）
- ロケ地・フィルムコミッションなどの舞台として
- 「まちごとホテル」（谷中）の発想で観光・体験も
- 北部地域観光の活性化
- 各地に観光スポットを

⑧移動

- 基本的には交通の便が良い
- 自宅から駅までの交通手段の充実（ラストワンマイル）

（ファシリテーターコメント）
皆さんに出して頂いた選ばれるための要素は既に今藤沢にあるものが8割程度あるようです。

都市の力の基本部分

ブランディング

- ・次世代育成・生涯教育を楽しみつつ、特色を探し出すことが必要
- ・観光・学び・遊びができる山や海がある特色や、それらを結ぶ交通インフラを強化し、事業・大学・観光の連携により新しいことを創出すべき
- ・藤沢の文化で勝負
- ・藤沢にしかない魅力・地域ごとの魅力の発信（特に北部）が必要
- ・狭い範囲で最先端の〇〇がある

- ・万人受けをしない方が良い
- ・既にあるものと藤沢にしかないもの（シラスや観光）で独自性を見出す
→藤沢の人材や企業とコラボ
- ・くらしのイメージをPRすべき。農業×ITや海×〇〇
- ・住人が藤沢を好きでいることが大事
- ・何かしらのメリットがあるまち
- ・湘南ナンバーで元々かっこいいイメージ

▼ 藤沢でこんな生活がしたい

人同士のつながり

- ・サーファーは海だけでつながる
- ・魅力的な小商いがある
- ・近所付き合い・挨拶ができる
- ・過干渉でも無干渉でもないゆるい関係
- ・多様な人がいて、受け入れられやすい
- ・全世代が交流ができる

子育て

- ・子どもたちが発見できるまち
- ・地域に温かい目で見守ってもらえる
- ・医療費や遊び場等子育てにやさしい
- ・青年時代の思い出を作り、Uターンしたくなる
- ・地域と教育の連携（人・文化・歴史・産業）
- ・遊びが多様

理想のライフスタイル

- ・仕事の種類や働き方が多様
- ・女性も働けるまち
- ・2拠点居住のためのインフラを整備
- ・生涯教育
- ・駅近のマンション・安いスーパー

安全

- ・地震対策
- ・土木の具体的な津波補強
- ・治安

その他

- ・自然保全
- ・清潔
- ・大学誘致
- ・住宅の太陽光発電と断熱による脱炭素化

▼ 藤沢でこんな働きをしたい

企業・起業

- ・実験の拠点を増やす
- ・製品の生産以外にもソフト施策の展開が可能
- ・IT企業の誘致
- ・マイクロビジネスの起業支援
- ・産業と観光の脱炭素化

農業

- ・藤沢の成り立ちから適する農作物を育てる
- ・農業従事者を集めるためのPRが不足
- ・都会で農業体験ができる
- ・地産物をPR
- ・ワインや漁業・農業等自作品を売るフェス開催

▼ 藤沢との出会い方

イベントによる出会い

- ・わざわざ藤沢に訪れたいイベント
- ・音楽やスポーツのイベントを誘致
- ・熱狂的なファンが集まる屋内外空間

空家活用による出会い

- ・商店街の空き家活用により、通行人が魅力を発見
- ・試住できる住居づくり
- ・子育て世代に安価で提供するような東京都の空き家対策を参考に
- ・いつでも自由に集まりブレストができる大人寺子屋を作る
→他にない仕掛けづくりをし、行政を悩ませるアクションを起こす
- ・市民食堂（食の発信・暮らしの交流・トライアルシェア）の設置

政策的に強めるべき事項

- ・ほしい情報を取りやすく
- ・やりたいことを申し出れば行政がサポートや実現できる仕組み
- ・人口増加する仕組みと数値での評価が必要
- ・住宅購入時の補助金を出す
- ・子育てしやすく年配になっても安心な行政サービス

公園の使い方を改善

- ・公園の使い方きゅうくつになっている
- ・遊具の多い公園
- ・保育園と公園と地域の人々との連携
- ・子供の見守り地域で見守れるように
- ・公園にトイレが無い。管理の問題で作られない
- ・公園+カフェの組み合わせを

寛容な居場所づくり

- ・やさしい目線、許容する感覚が重要
- ・図書館にものづくりマシン・勉強スペース（丸亀図書館・ヘルシンキ市民図書館モデル）
- ・自習室を増やす
- ・子ども食堂を増やす
- ・市民センター（公民館）の活用

何気ない空間・場

- ・時間が自由になる場
- ・小さな“コモンスペース”（ex.住宅地）
→日常の会話が生まれる空間
- ・何かが生まれそうな場所
- ・そこにいてだけでうれしい（気持ちのよい）場
- ・常に動きのある場
- ・ひとりでもなんとなく交流できる

若者の参画促進

- ・若者が活躍出来ることで若者が集まるまちになり、地域活性化につながる
- ・教育機関との連携
- ・学生が主体的に関わる機会の創出
- ・大学とボランティア団体との連携
- ・市のバックアップ

活動や交流の前提

ふるさどが感じられる街づくり
「住んでる人」自分の街を好きになる！

目的地に行くための交通の整備
コミュニティへのアクセス

フラットな空間・場 （目的問わない）

- ・地域の人を楽しみながら関われる場
- ・就労支援事業ができる広場（飲食店等）
- ・サンパール広場に常設のカフェ
- ・自由に使える場所がある

情報流通

- ・活動する市民団体の情報が流通していない
- ・活動を知らない。掲示板やSNSを活用した告知
- ・活動の認知と運営に関する補助機能が必要
- ・市民活動が表現出来る場→例：作品を展示する場所とか
- ・エリアマネの認知度を高める必要
- ・場所づくりにつながる情報があれば

交流と学びの場づくり

- ・現在ある資源の発展（育てる）
（ないものねだりをしない）
- ・人、団体の交流（活力を活かす仕掛け）
- ・色々な団体の交流を増やす
- ・互いに学びを得ることができる場づくり
- ・交流する場所（活動団体や企業同士）

アクティブな空間・場

- ・歩けるまち、滞留出来る場
- ・アクティブな人から普通の人まで全ての人が活動 交流
- ・パブリックスペースの充実ー公園、歩道等
- ・やりたいことを実現できる場
- ・踊りのあるまつり（参加型の）

＜アクティブな空間・場を支えるソフトウェア＞
・交流につながる活動を応援してくれる仕組みがあると動きやすい
・マネジメントー仕掛け人ールールー資金、資源
・やりたいことを後押しする行政のサポート

多様な空間・場を
バランス
良く創出

活動や交流の舞台になるまちとは

活動・交流の場・居場所があるまち

- ぶらっと立ち寄れる場所がある
- 多世代・多属性の人が常時通える場
- 個人で発表・発信できる場
- ジャンルや営利・非営利を問わない
- 「私設公民館」をつくる
- 子どもでだけで完結できる場所
- サテライトオフィス、サテライト市役所、サテライトキャンパスの整備

イベントが充実したまち

- 定期的なイベント→自然と交流が活発に
- 新しい住民はイベントに参加したがつている
- 万人向けよりコアな対象者向けイベントを

活動や交流がめざすもの

多様な主体の交流

- 年齢を超えた交流（お祭り、地引き網）
- 大人が楽しいと子どもも楽しい
- 子ども会→年の離れた子ども同士が関わる機会
- 小中学校の部活の地域化
- 学生ボランティア参加の充実
- 障がい者との触れ合いの場の充実
- 老人ホームと学生の接点
- 交流人口日本一を目指す

取組みの連携

- 取組み一つ一つを強くしてつなげていくことで新しいことをつくる→例、第二次産業、観光（江ノ島以外）、医療、教育など
- 各産業が連携→子ども、一般市民にアピール
- 町内会と市民活動が連携する

活動や交流の舞台になるまちを実現する条件

活動の場所（ハード）

- イベントなどで人が集まりやすい場所が増えてほしい
- 駅を中心に、今ある資源（スペース）を活用
- 屋根付きで、キッチンカーも入れる
- ファミリーでも使いやすい場所
- イベントがしやすい場所（設備、使用手続、場所代）
- 使用できる場所が明確になるとよい
- 活動を象徴するシンボリックな建物
- 市民会館の建替えに期待

活動を伝える・広める手段

- 活動や交流の場の情報が得やすくする
- インターネット・SNSの活用（特に若い人向けに）
- 転入者に市民活動の状況、施設の概要を伝える
- 産業・生産の様子を広める
- 効果的な宣伝方法を共有

活動を支える仕組み・制度

- 民間企業が動きやすくなる仕組み（税制、条例による緩和措置など）
- 空き家・空き店舗を活用するシステム（マンション空室も活用）
- ドラフト移住者制度（特定の職業・職能の人を呼んでくる）
- デュアルライフ希望者の支援
- もうかる活動＝収益性の確保

求められる「ひと」「まち」のあり方

<ひとのあり方>

- 活動に住民の理解がある（にぎわいが当たり前）
- ほっといてくれる、雑多、余白がある、同調圧力がない
- 使命感・責任感を持った人が中心にいる
- 人が明るい・いきいきしている
- 人のつながりがある

<まちのあり方>

- 行政を悩ませるほど新しいアクションが生まれる
- 大手資本でない、独自のお店がある
- 自然が豊かにある（自然の中では交流が生まれやすい）
- 改めてコンパクトシティを目指す

- まちに魅力的な要素がある（便利さより面白さ）
- 都心へのアクセス・通勤のしやすさ→人が集まりやすい
- 市内交通インフラを強くして、タテとヨコをつなげる

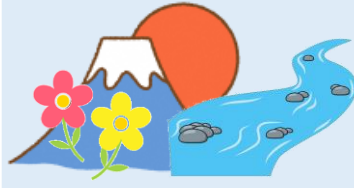
テーマ3 地域ごとに推したい長所や特徴 テーブルC

	歴史・文化芸術・教育	自然と風景	産業経済・観光
北部	・長後羽根澤屋資料館 ・湘南台音頭 ・日大の博物館 ・秋葉台体育館 ・湘南台文化センター ・湘南台図書館 ・慶應義塾大学SFC ・日本大学生物科学部	・少年の森がある ・遠藤笹久保谷公園 ・境川の自転車ロード ・彼岸花の名所 ・あじさいの名所 ・御所見は富士山が観れる	・小麦の栽培 長後製パン ・湘南台駅3線乗り入れ ・綾瀬スマートICが近い ・農家レストラン いぶき ・長後商店街 ・日大の動物病院 ・みやじ豚 ・果樹園 藤稔ぶどう
中部	・大山街道と天狗鳥居 ・藤沢飛行場跡 ・善行体育センター ・グリーンハウス ・遊行寺坂は東海道の歴史 ・藤沢宿は街道の分岐点 ・大庭城址 ・蔵のパン屋 ・FAS浮世絵館 ・鶴沼皇大神宮	・湘南大庭の親水公園ドックラン ・リスが見れる ・グリーンベルト（緑地帯） ・新林公園と川名清水谷戸 ・藤沢駅南口の富士山の眺望	・テラスモールか駅周辺にイベントステージがほしい
南部	・辻堂の辻 ・鶴沼の細い路地 ・石積の塀（石垣） ・片瀬駒 ・村岡御霊神社 ・龍口寺	・辻堂海浜公園 ・高い建物が無い ・長久保公園は緑のメッカ ・落ち着く海沿い遊歩道 ・藤の花が植えられている ・空が近く感じ、自然を感じられる ・境川に沈む夕陽 ・片瀬山の富士見坂と桜	・Fujisawa SST ・鶴沼海岸商店街 ・鶴沼海浜公園（スケートパーク） ・落ち着ける海沿い遊歩道 ・世界遺産級 江ノ島 ・江ノ島エスカー ・片瀬漁港 ・江ノ電江ノ島駅

藤沢市共通の特徴

藤沢市での生活環境に対してかなり**ポジティブな意見**がほとんどである。

市全域で共通して**富士山**の眺望、**河川**、**花**に対するコメントがみられる。



藤沢市の特徴は、3つのエリアで集約ができる

北部の特徴

- ・産業から自然、歴史と**多様な要素**。
- ・特に**産業や自然**に関する強いイメージ。
- ・**教育**に関するコメントは北部のみ。

グリーンベルト（緑地帯）

多様性ある北部と個性の強い中南部を結びつけるおへそ部分

中部の特徴

- ・**歴史**や**神社仏閣**に対する強いイメージ。
- ・善行と大庭は**自然**のコメントが多い。
- ・芸術やイベントも盛んな地域。

南部の特徴

- ・**自然**（特に海岸）に対する強いイメージ。
- ・**自然**の要素に基づく**産業・観光**の存在。
- ・商店街や路地などの個性ある街並み。



テーブルC



推したい長所や特徴

広域アクセスも便利な鉄道、世界で有名な鉄道がある

- 東京や横浜に行きやすい、東京に最も近い湘南
- 便利な鉄道と駅があるのは住む場所として魅力
- 「江ノ電」は世界から観光客が来る
- 年間を通じてイベントが多い湘南台駅、藤沢駅
- 藤沢駅周辺のマンションは売れる
- 小田急で江の島に行けることの認知度は低い
- 縦と横のつながりを強化して「湘南の藤沢」に

生活（趣味）も仕事も充実できる環境がある

- ＜スポーツ＞
- 海浜公園、境川沿いなどの環境
 - マリンスポーツ、アーバンスポーツ、テニス、プール、スポーツやサイクリング、マラソンなどスポーツのメッカになるポテンシャルがある
 - スポーツは高齢者が子どもに教える場にも
 - 箱根駅伝のルート、応援する人が集まる
 - 応援したいものを増やして推し活できるまちに
- ＜祭やイベント＞
- 大小新旧あわせると週ごとにあちこちで祭りがある（特に5～9月）
 - 地域ごとに子どもから高齢者まで馴染んでいる
 - 祭り巡りをイベントにできないか

自然・歴史文化・産業学びの素材がいっぱいある

- ＜自然・歴史文化＞
- 歴史的遺構などの人文景観と自然景観
 - 藤沢に住んで歴史文化を楽しもう
- ＜農業の魅力＞
- 六会・善行・大庭の農業（トマトなど）
 - 北部の畜産
 - 農業をしたいが田舎や嫌という人呼び込めないか
- ＜漁業＞
- 地引網の体験



人口減少を見据えて

「ひと」が財産

- 新旧住民の共存、若い人の流入とベテランの混在、人財が豊富
- 13地区の個性と郷土づくりの活動
- 想いや意見を受け入れてくれる人が多い、巻き込み型の活動スタイル
- 若い世代が楽しめるまちづくり活動
- プロでなくても実現できる
- 高齢者は人生の先輩、子どもからシニアまで体も心も元気の輪を広げよう

魅力を活かして住む人、働く人を増やしたい

- 観光はオーバーツーリズムもある
- 観光は江の島と藤沢宿に集中投資してはどうか
- 住む人を増やす方が良い（税収増にもつながる）
- 増やしたい人物像として「若手」を
- 事業者－大学－観光をつなげる仕掛けを
- 病院や診療所も多く子育てしやすい環境がある、高校生まで医療費無料で
- 数値目標をもって人口増加策を

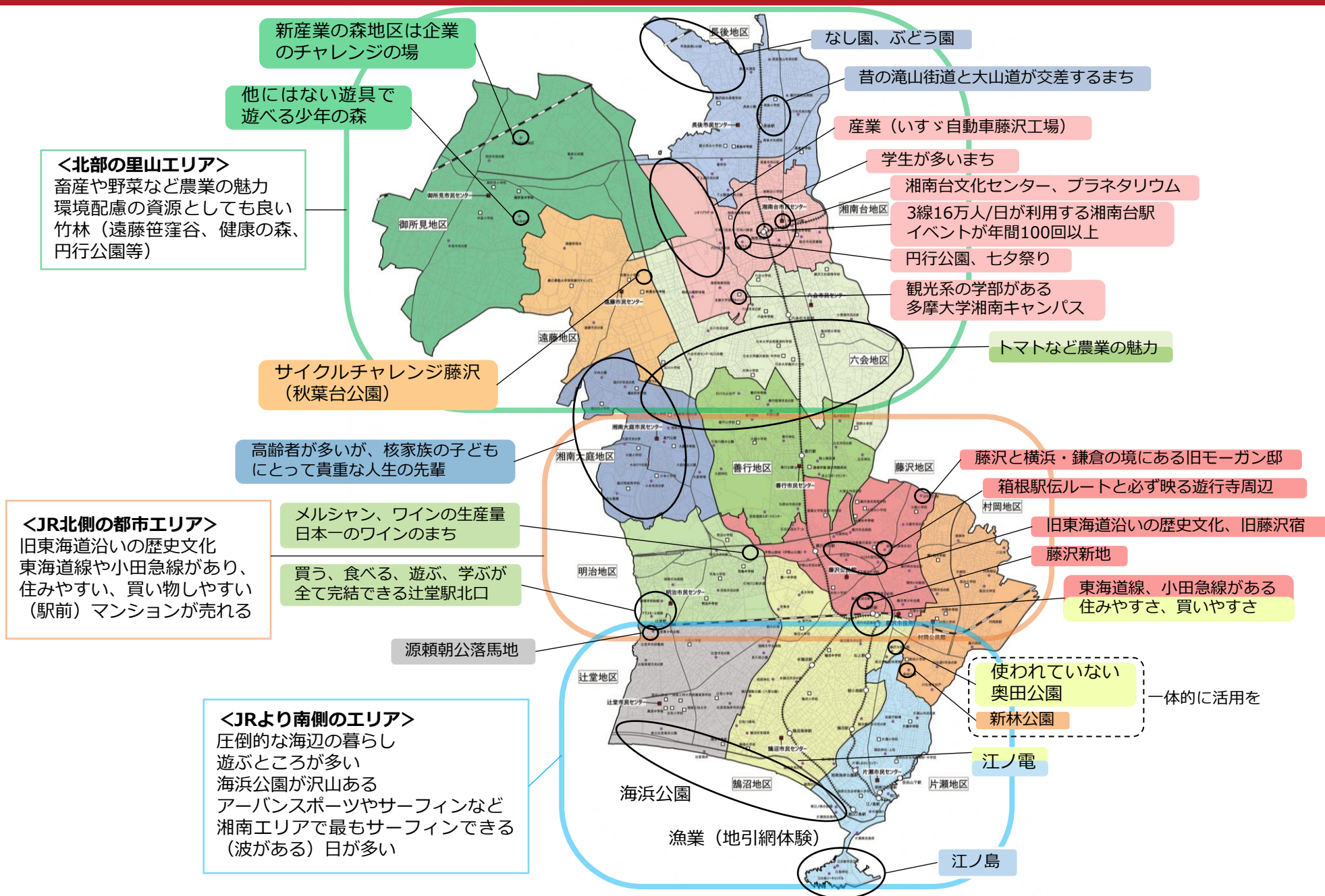
空き家は負から正に変えたい資源

- 空き家、空きマンションを資源に
- 市外の人から2拠点生活に選ばれるポテンシャルがある
- 地方の人にとって都市部の拠点、藤沢留学、就職活動時のシェアハウス等の受け入れ
- 2拠点居住で多様性の受け入れ

地域資源を活かして次世代の育成を

- それぞれの地域にある資源、特性を活かして歴史や自然から学ぶ場づくりを
- 中学生が他地区の生活・文化・歴史を学べる市内留学制度を

map 地域ごとに推したい長所や特徴を考えよう テーブルF



中島会長

- 藤沢市の魅力と感じているものは、誰かが生み出し、長い時間をかけて積み重ねられてきたもの。
- 既存の魅力を大事にするだけでなく、時代・社会変化も読み取りながら、今や次の世代のために新しいものを付け加えることも必要。
- 都市マスタープランでは、次の時代への布石を打つために今日の意見を活かしたい。
- 暮らしや活動の舞台として、アクティブな空間と、日常の静かな空間のバランスが大事。目玉となる場所づくりだけが都市計画ではなく、日常をどう良くしていくか、守っていくかも大切。
- 地区ごとだけでなく、南北の特徴ある魅力も受け継ぐマスタープランを考えたい。
- 今日出た多様な意向を支える・許容できる舞台としてのまちをマスタープランで提案したい。

村山副会長

- 多くの方からライフスタイル等の多様な場面に関する意見が出された。
- 多様な場면을都市づくりのストーリーとして繋げる必要がある。
- 都市マスタープランは土地利用やインフラが中心となるが、これらは舞台を作る仕事だと考えている。色々な場面からストーリーを描き、それを支える舞台をデザインできるか考えていく必要がある。
- その上で、①活動と舞台の調整②保全と修復の調整。残すべきものと改修・改善するものの峻別が必要。③部分と全体の調整。普段の生活のシーンから比較的小さく身近なスケールをたくさんいただいたので、それらを都市スケールの話につなげる必要がある。